

第2回 道の駅おけがわアドバイザー会議 実施概要

○日 時 平成27年9月3日（木）14時00分～16時00分

○実施箇所 桶川市役所仮設庁舎 会議室

○出席者

専門家（敬称略）

立正大学 地球環境科学部 教授

伊藤 徹哉

株式会社 リクルートライフスタイル
じゃらん統括編集長

大橋 菜央

株式会社 意と匠研究所代表、
日経BP社日経デザイン前編集長

下川 一哉

埼玉県 危機管理防災部 消防防災課長

澁澤 陽平

桶川市 市長

小野 克典

関東地方整備局 道路部 道路環境対策技術分析官
大宮国道事務所 事務所長

石川 雄一
真田 晃宏

○実施概要

挨拶

現地視察結果の報告

桶川市「道の駅」基本計画（案）の説明

アドバイザーからのアドバイス

意見交換



○主なアドバイス

■ 「つなぐ つながる つなげる」というコンセプトについて

- ・ 桶川市が説明した宿場町としてのつながりだけでなく、桶川市内の市民同士、桶川市民と来訪者、生産者と消費者、道の駅の関係者のつながり、市内に点在する観光資源のつながり（周遊するルート選定など）、周辺市町にある観光地とのつながりなどもあげられる。

○主なアドバイス

■独自商品開発について

- ・開発する商品は、桶川らしさをアピールできながらもコンセプトにそって統一性を持たせたものの方がよいと思う。
- ・べに花は、染料や食品などの使い方があり、いろいろなものとひもづけられ、展開しやすいため、核にしてもよいと思う。
- ・べに花の生産は、繁忙期以外の仕事の確保が課題なので、農閑期は道の駅に従事いただくなど、年間を通して仕事があり安定して収入を得られる工夫を示すことができる現実的でよいと思う。
- ・世の中のニーズに合わせた、メディアにわかりやすいものを揃えた情報発信が必要である。

■観光について

- ・「つなぐ つながる つなげる」のコンセプトに向けて、道の駅と周辺の観光施設が連携が必要である。
- ・飛行場といった特別な場所で飲食できる体験ができるような、飛行場にカフェテラスがあるとよいと思う。
- ・荒川のサイクリングロードを走っていると、この周辺の休憩ポイントとして飛行場があり、観光客ではないがサイクリストも軽視できないと思う。
- ・泉福寺せんふくじでは、国指定重要文化財の木造阿弥陀如来坐像あみだによらいざぞうだけでなく、石造仁王像におうぞうは魅力的である。
- ・旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場きゅうくまがやりくぐんひこうがっこうおけがわぶんきょうじょうは、平和を感じることができるようになるとよいと思う。
- ・道の駅のゲートウェイ機能として、カラー舗装や看板等による案内誘導で、来訪して頂くきっかけになると思う。

■道の駅の運営について

- ・道の駅をきっかけに、桶川をよくしていこう、盛り上げていこうという情熱や熱意をもった人材や若い人の集め方が課題と思う。
- ・地元出身の著名人に名誉駅長になってもらうこともよいと思う。

■防災について

- ・防災の観点では、ローリングストックの考え方をとりいれ普段と災害時を一体となって考えた方がよいと思う。
- ・道の駅だけで考えるのではなく、地域の施設と連携して機能を担保することが重要である。